

■ 令和元年度第 1 回羽曳野市総合教育会議 会議録 ■

1 日 時 令和 2 年 2 月 6 日（木）午前 11 時 00 分～午前 11 時 55 分

2 会 場 羽曳野市役所 本館 3 階 市長会議室

3 出席者

市長	北川 嗣雄
教育長	麻野 多美子
教育委員	金銅 真代
教育委員	多田 謙司
教育委員	新熊 和彦
教育委員	奥野 貞一

4 事務局

市長公室部長兼政策推進課長	清水 淳宅
政策推進課主幹	内本 修平
政策推進課主事	松尾 尚樹

5 関係者

市長公室理事	吉永 留実子
市長公室副理事兼こども課長	森井 克則
教育次長	上野 敏治
学校教育室長	川地 正人
教育総務課長	粕谷 美光
学校教育課長	前田 幸章

6 内 容

【次第 1：開会】

<司会>

定刻がまいりましたので、ただ今から令和元年度第 1 回羽曳野市総合教育会議を開催いたします。

本日の総合教育会議は、昨年 12 月に就任されました麻野教育長のもとで初めての開催となります。また、奥野教育委員にも新たに就任いただいております。

本日の会議は、新たな教育長の体制のもとで、本市の教育・保育環境を取り巻く諸課題について、市長と教育委員会において、その認識や方向性等について共有を図らせていただくものです。

諸課題として挙げさせていただいた本日の議事事項については、次第にある 4 件でございますので、それぞれ意見交換等いただきたいと思いますと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。

【次第 2 : 市長挨拶】

<北川市長>

令和元年度第 1 回目の総合教育会議を開催させていただきます。各委員の皆様におかれましてはご出席ありがとうございます。麻野教育長におかれましては、新たに就任していただき、すでに教育行政の推進にあたっていただいているところであり、また奥野委員にも新たに就任いただいております。

進行が申し上げましたけども、現在本市で取り組んでいる主な教育・保育に関する事務事業についての現状報告をさせていただき、認識を同じくさせていただきたいなという思いの中で、本日の総合教育会議を開催させていただきました。今後、総合教育会議は定期的開催し、教育委員さんとの距離感というのをもっと縮めておかなければならないと私自身は感じておるところでございますので、よろしく願いいたします。

本日の会議は、現在取り組んでいる 4 つの事項について、皆様に現状報告をさせていただきます。いずれも取り組んでいかなければならないものでありますが、特に議事事項の 2 番目に挙げております「小規模化が進む公立幼稚園における教育活動のあり方について」は、4 月から新学期がスタートしますので、小規模化が進む各幼稚園での保育について、それぞれの園の保護者の方の意見等を聞かせていただいて、施策に活かせたらなという思いであります。それでは本日の会議よろしく願いします。

【次第 3 : 教育長挨拶】

<麻野教育長>

こんにちは。4 年前に総合教育会議において教育大綱を策定し、その時は教育委員として出席させていただいていましたけれども、教育委員もその当時から多く代わられています。総合教育会議の目的や趣旨を踏まえ、いろいろとご指導いただきまして、進めていただければと思っております。どうぞよろしく願いします。

【次第 4 : 議事事項】

<北川市長>

それでは、議事進行を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

《①本市と府立懐風館高等学校との連携に係る報告について》

<北川市長>

まず、1 点目の「懐風館高校との連携に係る報告について」ということで、ご報告申し上げます。

この話の発端は、懐風館高校統合前の旧羽曳野高校で長らく教員として勤務され、現在芦屋大学の学長である比嘉学長が、懐風館高校の定員割れの現状について非常に気にしておられて、羽曳野市でも何とかお手伝いいただけないかというお話が私にありました。これまでも懐風館高校とは連携をしてきましたが、この話がきっかけとなり、懐風館高校と

協議させていただき、3年連続定員割れにしないためにも頑張れたらなという思いの中で、取り組みをさせていただきました。その取り組みも含めて、事務局から報告してください。

<事務局>

「懐風館高校との協議や取り組み」・「進路希望数の推移」など報告・説明

<北川市長>

事務局から報告ありましたけれども、市長としては、こうした取り組みについては、地元自治体がどれだけ努力したのか、あるいは、OBの方に努力していただいたのか、関係者でやるべきところはしっかりやっていく、そして結果に捉われず、懐風館高校がある限りについては、こうした連携は絶やさずに続けさせていただきたいなと思っています。そういうつもりで懐風館高校とは今までからもこれからも変わらずに支援していきたいと思っています。

仮に3年連続定員割れとなれば、大阪府では、再編整備計画の方針に基づいて大阪南部における将来の中学卒業者数の推計を含めて、懐風館高校のあり方を総合的に判断されるということです。懐風館高校の存続については、府が公立高校全体の中で考慮されるのでしょうから、羽曳野市に公立高校が1校しかないという理由だけでは厳しいのかもしれませんが。

<麻野教育長>

先月の終わり頃に懐風館高校の校長が来られまして、実情をお話しいただきました。教育委員会でもできるだけ応援いただきたいということでありましたので、学校教育室長から学校現場にもその旨を伝えてもらっています。今年何とか出願数が定員を上回れば、あと3年間は存続するということをおっしゃられていましたが、羽曳野市に1校しかない府立高校ですので、できるだけ残していきたいという思いを地元の皆さんは持っていらっしゃると思いますし、中学校現場でも努力させてもらっていることをお話しさせていただきました。ただ、校長としては、皆さんの思いがどう結果に表れるかは、現状のところ何とも言えないんですとおっしゃられていました。

<北川市長>

現状として、懐風館高校としてもギリギリのところ頑張っているという認識を持っていただければと思います。

《②小規模化が進む公立幼稚園における教育活動のあり方について》

<北川市長>

続きまして、「小規模化が進む公立幼稚園における教育活動のあり方について」に進ませさせていただきます。それでは、事務局から現状報告をお願いします。

<事務局>

「就学前教育・保育のあり方に関する基本方針」・「公立幼稚園児数の推移」など報告・説明

<北川市長>

これまでの幼稚園児数の推移なども含めて、小規模化が進む幼稚園について報告がありました。

各幼稚園の園児数の推移については、少子化の影響もありますが、幼稚園は園区を設定していませんので、3歳児保育や預かり保育を実施している園に行かそうということで、地元以外の幼稚園に通っている子どもたちがいるということも考慮していただければと思います。

小規模化が進んでいる現状で、そうした幼稚園間の交流事業を積極的にさせていただいております。小規模な幼稚園については、2年間という限られた期間の中で、バスで送迎させてもらえるだけ交流を深め、そして、良い形での保育ができたかなという思いであります。

こうした思いのもと、小規模化が進む、それぞれの幼稚園の保護者の方とお話しをさせていただく機会を持ちましたが、園によって保護者の方のお考えは異なっています。最終的に私がお話をさせていただいたのは、小学校区はそれぞれの地域で決まっていますが、公立あるいは私立の幼稚園、民間あるいは公立の保育園に通った子どもたちが、それぞれの幼稚園・保育園でいい思い出作りをしてくれているので、小規模な幼稚園に通う子どもたちにとっても少しでも良い形の中で保育を受けてもらい、それぞれの小学校にあがってもらえたら良いということです。

<多田教育委員>

「就学前教育・保育のあり方に関する基本方針」の6ページに「今後の基本的な方向性」ということで書かれています。これを見る限り、公立幼稚園と保育園をこども園や単独幼稚園として9つぐらいに集約していくというのは、市の方針として決まっているのですか。

<北川市長>

単独の園としていく幼稚園と認定こども園としていく幼稚園・保育園があります。園区を設けていないため、市内のどの地域からも通園していただけますので、保護者の皆さんが家庭状況や行動範囲も含めて、それぞれで判断していただければと思っています。

<多田教育委員>

いずれ小学校や中学校においても、このような小規模化の問題が起こり、教育委員会にも関わってくるのだと思っています。羽曳野市内には14校の小学校がありますが、どこかの時点でこのような問題が起こりうるので、その辺も含めて流れを作っておかないといけないのかなというのは思います。

<北川市長>

認定こども園へ移行する園については、できる限り校区内の園を外さずに設定させていただいております。

私は、駒ヶ谷近隣の小規模化が進む幼稚園については、駒ヶ谷幼稚園で交流させてあげてはどうかと思っており、個人的な思いではなくて、やはり駒ヶ谷には子どもたちの保育にとって良い環境が一定整っていると考えているからです。駒ヶ谷地域には多くの緑があって、市の特産物であるぶどうの栽培、さらに駅前には公園もあり、観光農園でみかん狩

りもできる、そういった保育環境を用意できるのが駒ヶ谷であるということです。お話をさせていただいた保護者の方の中には、なぜ駒ヶ谷かと思っていらっしゃる方もおられるでしょうが、駒ヶ谷にこだわったということではなくて、子どもたちにとって良い環境が整っているということで説明させてもらいました。現状、このように考えておりますので、ご理解のほどよろしく申し上げます。

《③学校プール施設のあり方の基本的な方向性について》

＜北川市長＞

続いて、「学校プール施設のあり方の基本的な方向性について」に進ませていただきます。それでは、事務局から現状報告をお願いします。

＜事務局＞

「学校プール施設の現状の運用状況等」・「屋内温水プールの供用までのスケジュール」など報告・説明

＜北川市長＞

現状報告がありました。この件については、学校プールや整備予定の屋内温水プールをそれぞれどのような形で使用していくのか、また小・中学校のプール授業で屋内温水プールをどのように活用するのか、昨年夏、高鷲南小学校が高鷲南中学校のプールを供用したように隣接する学校同士でうまく協力してやっていくのも一つの方法です。学校プール施設のあり方や運用方法などの考え方を早期にまとめて、学校現場も含めて、市民の皆様に報告させていただかなければなりません。それが喫緊に対処が必要な一番大きな課題かと思っています。

古市南小学校についても、駒ヶ谷小学校までバス移動してプールを供用しました。古市南小学校の保護者の方々と直接話はしていませんが、なぜプール改修等をしないのかという思いを保護者の方は必ず持たれていると思います。そこはしっかりと学校プールのあり方や運用方法を決めて、そして報告する中で、古市南小学校の保護者の方々にもご理解いただけるならいたたくということにしないとイケません。ですから、学校現場も含めて、この夏までに一定の方向付けができればと思っており、教育長とともに協議を重ねていきたいと考えていますので、よろしく申し上げます。

また、屋内温水プールは、1年中使えるプールとして市民の健康増進や体力づくりにも活用したいという考えを持っています。整備には一定の持ち出し、額的には大きくなりますけれども、それだけの価値はあると思っておりますので、よろしく申し上げます。

《④給食センター新築移転基本構想のとりまとめの方向性について》

＜北川市長＞

続いて、「給食センター新築移転基本構想のとりまとめの方向性について」に進ませていただきます。それでは、事務局から現状の報告をお願いします。

<事務局>

「給食センターの新築移転に向けた考え方」など報告・説明

<北川市長>

給食センターの新築移転に関しての現状報告がありました。

市長として、給食費のことも含め学校給食のあり方については、時期を急がずにしっかりと説明責任を果たしてほしいと担当課に指示しています。校長、教頭また PTA 連絡協議会に対して、しっかりと教育次長、担当課長が出向き、現状説明をして、そして理解を得られることがまずは第一かと思っております。

現状説明の中で、要望が出てくれば、こういう形で今後学校給食を取り組みますよ、こういう内容にもしたいというやり取りの中でまとめていかないといけません。給食費改定は、そうしたやり取りの結果であって、まずしっかりと現状の学校給食も含めてどうするかというのを話をしながらまとめていってくれたらと考えています。

学校給食に係る経費負担については、食材の経費は保護者、施設や設備また運営の経費は公費でそれぞれが負担することとなっております。市としては、この公費負担とは別に、僅かではありますが一人一食につき5円の食材経費補助を行っています。この補助の活用方法として、別会計にして1か月なり2か月に一度、子どもたちが喜ぶようなモノを地元食材も含めて提供するというのはいかがでしょうかと提案もさせていただきました。その中で、先日 J A 大阪南さんの本部へ行きまして、農協さんにも食材提供に協力してほしいという話をして、組合長には快く協力を受けてくれました。組合長はやはり羽曳野で収穫できたものを提供するのいいのではないかという意見をおっしゃっていました。野菜についても羽曳野産という形でね。今後いついつどういうふうにしたいというようなプランを提示させてもらい、その中で、農協が協力できるところはさせていただくという返事をいただきました。併せて、給食の内容についてもこれから充実を図っていくということで報告させていただきます。

【次第5：その他】

<北川市長>

市長から現状報告させていただいた4点の議事事項については以上となります。

せっかくに機会ですので、もし何か市の取り組みでこういうのはどうですかなど、この4点以外のことでも結構ですので、ご意見等を出していただいたらいいかなと思います。

<多田教育委員>

今日の会議の内容も含めて基本的に一番の問題は、やはり少子化というか、児童数が減ってきているという問題に尽きるのかなと思います。懐風館高校にしても、幼稚園にしても、プールにしても、給食センターもそうですけど、やはり羽曳野市として子育てをしやすい環境をいかに創っていくかという観点から子育て世代に多く住んでもらえるようなまちづくりをしていかないといけないと感じました。これはもちろん簡単な話ではないので、それは重々分かっていますが、その辺に対する施策も展開していった方がいいのかなとは感じました。

<北川市長>

少子化・高齢化が進む中で、どう効果的にそれぞれの施策をタイムリーに打ち出していくかが一番のポイントだと思っています。ですから、子どもたちを取り巻く環境について、先々までしっかりと見据えながら、この時期にはこのことをというように、効果的にタイムリーに市民の皆さんが理解できるように出していかなければいけないと思っています。

そういった意味では、幼稚園での取り組みや認定こども園への移行という形で一定の方向付けはしていますけれども、おっしゃったように羽曳野が子育てに適した良いまちであるという印象付けを出していかなければなりません。そういった施策については、まだまだ足りないところだと思います。

例えば、恵我之荘の密集した住環境をどう整備していくのか、あるいは世界遺産・日本遺産があるまちとして、どう賑わいも含めて創りだしていくのか、やっぱり隣接する市町村よりも羽曳野から西のまちというのは地の利があると思っており、ここをどう活かしていくのかも含めて、条件的には悪くはないと考えています。どう施策を展開していくか、一方で財政的なことはついて回ることですけれども、どう創意工夫して頑張っていくか、そこに尽きるのではないかなと思っています。

<麻野教育長>

(仮称)西部こども未来館も3歳からの受け入れになるのでしょうか？

<北川市長>

(仮称)西部こども未来館では、向野保育園がありますので、0歳から5歳を受け入れます。基本的に、コロセアム側に整備する新園舎には3、4、5歳を、既存の向野保育園には0、1、2歳が入ることを想定しています。

このこども園の整備工事には、約9億近い大きな予算を措置していますが、その4分の1は園舎以外の部分で、地域の方に還元するために、羽曳が丘に整備したグランドゴルフ場のように、普段は高齢者の皆さんが行かれてグランドゴルフで楽しんでいただくために、芝生と土の部分を作りながら、その中に流れる小川を作って水を流して利用できるコースとして、また夏には子どもたちに開放して、水遊びが出来るように設計をしており、環境整備を進めます。そういう設計で整備しますので、こども未来館たかわしのように、こども園だけではなくに地域に開放できるような両方の機能を備えているということで、ご理解していただければと思います。

羽曳が丘のグランドゴルフ場では、夏の開放期間に1日100人ほど来られます。100人来るとことは保護者も含めれば200人来るとことで、それは羽曳野市民だけに限らず、近隣市町村からも来られていると思います。そのことによって賑わいが生まれており、今回の整備でもこのような賑わいの効果も期待しているところです。

【次第6：閉会】

<司会>

以上で本日の案件はすべて終了いたしました。これを持ちまして、令和元年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。

本日は、ありがとうございました。